

令和3年度 第1回岡崎市図書館協議会議事録

- 1 日時 令和3年11月25日(木) 午前10時開始、午前11時45分終了
- 2 場所 岡崎市役所西庁舎
5階 会議室502
- 3 出席者
 - (1) 出席委員 柴田委員、平岩委員、江良委員、大山委員
山田委員、浦部委員、荻野委員、加藤委員
 - (2) 傍聴者 1名
 - (3) 説明のため出席した事務局職員
手嶋社会文化部長、鍋田中央図書館長、大山副館長、
鈴木総務係長、天野資料提供サービス係長、
上川畑情報サービス係長、渡邊主任主査、濱寫事務員
- 4 次第
 - (1) 社会文化部長あいさつ
手嶋社会文化部長あいさつ
 - (2) 委員紹介
各委員自己紹介による
 - (3) 会長及び副会長選出
会長：柴田委員、副会長：大西委員を互選
 - (4) 会長あいさつ
柴田会長あいさつ
 - (5) 議事
 - ア 令和2年度事業報告
 - イ 令和3年度事業計画
 - ウ 報告事項

(6) その他

5 報告及び議事の要旨

(1) 令和2年度事業報告
事務局から説明

(議長)

- ・事業報告について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

- ・図書館閲覧席の事前予約制について、利用者にとっての利便性や職員の負担軽減に大変役立っている取り組みだと思うが、導入についての問題点などはあったか。例えば、他の図書館の例だと、予約しただけで使わず、席が無駄になってしまうということを聞いたことがあり、マナー違反が問題になっているようだが、岡崎ではいかがか。

(事務局)

- ・閲覧席の事前予約は本年度も継続して行なっており、回を重ねることに周知はされていると思われるが、予約をしていない生徒が空いている席をめがけて、館内を走ったり、並んでしまうということがある。

ただ、事前予約開始以前のように開館前に長蛇の列になり、すごく騒がしい状況になるといったことはなくなったため、マナーの向上はされてきているのではないかと感じている。

(2) 令和3年度事業計画
事務局から説明

(議長)

- ・事業計画について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

- ・電子図書館の導入の検討について伺いたい。

コロナ禍ということで電子図書館、電子書籍の導入をする図書館は非常に増えており、事業計画には、検討し準備を完了する、とあるが、実施の予定はどうなっているか。

・また、図書館の資料費が今年は激減している、そういうような状況の中で、電子書籍を入れるとなると、予算の問題についてもどういうふうに考えているのかお聞きしたい。

(事務局)

・市の予定について、現時点では未定であり、予算措置も現時点ではされていない。

・図書館としては、図書資料費を令和2年度予算ベースに戻すことを優先しており、現時点では、電子図書館の予算措置はその後と考えている。

(委員)

・来年できればやりたいということで、予算措置をしたい、というお考えでよろしいか。

(事務局)

・予算的には御指摘のとおり非常に厳しい状況であるが、予算がついてから調査をしているようでは市民ニーズに応えられないので、今の段階から調査を進めている。

・周辺の状況の調査を続けながら岡崎市として、どういった目的で電子図書館を導入していくのか、また、どういうカラーを出していくのかというのは、これから検討していきたいと考えている。

・周辺自治体では導入を進めている現状もあるが、これは国のコロナ対策の予算の補助金がついたということもある。

・全国的にみれば電子図書館を導入しているのは2割にも満たない。

・導入時にはいろいろなトラブルや課題が出てくるため、先進自治体に学ばせてもらいながら、スムーズで効率的な運営ができるよう導入を進めていきたいと考えている。

・現時点では、予算措置も含め、実際にどの時点で導入するのか不明な状況である。

(委員)

・今のお話であると、事業計画の内容については、「検討し、準備を完了する」ではなく、「継続する」ということでよろしいか。

(事務局)

- ・予算措置がされればすぐにでも導入できるような体制だけは整えて、常にリサーチは続けていきたいと考えている。

(議長)

- ・電子図書館の予算の話と図書館活動について、コロナ禍の図書館活動あるいは読書活動、そういったものが市民レベルで変わってきており、以前よりも本を読む人が増えてきたのではないかと思っているが、そういった中で、図書館の予算が大きく削られるというのは、実績を捉えられて、減らされたということか。

(事務局)

- ・実績とは関係ない。
- ・コロナ禍の経済活動によって税収が落ち込み、図書だけではなく市の全体の事業について、かなりの縮小若しくは削減を求められた、ということが前提の話である。

(議長)

- ・岡崎市だけではなく、県の財政を含めて同様のことが起こっているということは重々承知しているが、世の中の動きは変わってきていて、他の図書館は比較的動いていたということもあったため、実績の部分が問われているのではないかという疑問から質問をした。
- ・一生懸命取り組んでおられることは理解しているが、市民としては、そういう中でより読書活動等を活発にしていくにはどうしたらいいか、ということについて、何か良い知恵があるといい、という思いがある。

(3) 報告事項

- ア 市民センター図書室の今後の施策について
- イ 令和3年度の図書館協議会について
- ウ 徳川家康公座像の寄贈について
- エ 子育て世帯への図書の宅配サービスを実施
事務局から説明

(議長)

- ・報告事項について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

- ・図書館協議会ではどうしても大人の世代の図書館の話が中心になってしまうが、子どもの時代から図書や絵本に慣れ親しんでいくということは、絶対に必要だと思う。
- ・幼児教育の世界では絵本は必需品であり、絵本の読み聞かせや紙芝居など、素話という、ちょっとお話ができるということが大切なのだが、若い親世代は読み聞かせなどをしてもらっていないので、とても素話が下手、若しくは出来ないという状況で、とても深刻な状況である。
- ・先ほどの報告をいただいた電子図書館や座席の事前予約制等は、全てスマホを持っていないと対応することができない。
幼稚園では体を動かしてよく遊ぶこと、生の言葉で語ってあげたり、絵本を読み聞かせてあげたり、丁寧にやろうと努力するが、若い親世代の御家庭では、生活の中にゲームが入り込んでしまっており、子どもたちはスマホの操作などもよく知っていて、それに勝るくらい絵本の読み聞かせなどをやられている家庭と、そうではない家庭とで幅ができています。
- ・また、今のお母さんたちは、知りたいことだけをスマホでパッと選択される。自分たちの世代だと新聞を読んで途中も目を通すので、自分が関心のないことも途中で触れていくが、スマホで検索をすると、自分の興味のあることだけ検索することができてしまって、途中がない。子どもたちは新聞を開いている姿をあまり見ていないので、これも深刻だと感じている。
- ・図書館として何ができるかというのは難しいが、やはり活字に戻していくとか、親世代がそういうことができなければ次はないので、とても図書館の役割は大きいと感じている。
長いスパンで考えると、子どもがちゃんと育っていかないと困る。こういう現実にはしっかりと向き合っていただけるとありがたい。

(委員)

- ・子育て世帯への図書の宅配サービスというのは、どういう選定で、どの世帯に配られたのか。
- ・この2年間は、コロナで学校での読み聞かせがほとんど出来ておらず、また、図書館での小さい子への読み聞かせもほとんど実施出来なかった。
子どもの2年というのはすごく大きいため、少しでも絵本を渡してあげたい。早くコロナが終わって欲しいなあと思っている。

(委員)

- ・子育て世帯への図書の宅配サービスは非常に良いと思っている。

・働いてるかた 400 人ぐらいにアンケートをしたが、コロナで読書活動が増えたというかたは少なく、ほとんどがゲームと動画視聴が増えたという結果であった。

アンケート調査の対象は働く世代である 20 歳以上の方々だったが、そういう世代の子どもさんは、おそらく大変だろうと感じた。

・愛知県の保健師の 3 歳児健診の質問項目に、スマホを使いますか、使いませんかという項目が入った。それほど、問題になっている。

・そもそも本がない御家庭もあり、子どもにスマホを渡して、子どもも親もスマホを触っているような、大変な状況である。

・子どもに絵本を触らせないと色々な問題が起こってくるし、スマホをあまり触らせると脳の変化が起こってくるという研究結果もあるため、本当にお子さんを中心に考えていきたいというふうに思っている。

(事務局)

・子育て世帯への図書宅配サービスは、緊急事態宣言時に未就学児を育てている世帯を対象に、先着 30 セットを申込みいただく形で実施した。

申込みをいただく時に、お子様の年齢を確認し、年齢月齢に合わせた絵本を司書が 3 冊選書し、それをセットにし、自宅まで届けるというものだった。

ただ、緊急事態宣言時ではあったが、図書館は開館していたため、通常の実務を行いながら、また、職員が直接届ける形であったため、30 セットという限定的な形を取らせていただいた。

図書館への来館が困難なかたを申込者として想定していたが、実際に申し込んでいただいたかたの中には、図書館を普通に使われているかたや近い地域のかたの申込みもあった。

利用していただいたかたには、届けた際に楽しみにしていた、というお声をいただいており、やって良かったと感じている。

T w i t t e r など周知をすると格段に応募が増えるという状況もあったため、良い悪いは別にして、そういったツールも使いながら、周知をさせていただいた。

(委員)

・令和 3 年度事業計画について、むかし館の取組みは、コロナ前から行われているものか。

(事務局)

・昭和時代の暮らしなどがわかるものを現物展示し、理解していただくため

のものとして、りぶらが開館する際に作ったものである。

民俗的な資料も扱っており、資料の収集、保存という意味で所轄は図書館になっている。

(委員)

・自分が子を持つ親として、本には作り方等が掲載されているものがあるが、それを参考にした体験工作みたいな体験講座の実施はできないか。

子どもは遊ぶだけではなく、自分が作ったもので遊ぶというのが、楽しいと思われる。図書館にはいろいろな資料があるため、それを利用した体験教室などが出来ると良いのではないかと感じた。体験教室はとても人気があるため、有料にしても人は集まると思う。

(事務局)

・むかし館の中でやっているのは、昔の遊び、例えば、こまやあやとりといったようなものである。

体験というと、バックヤードの図書館司書の体験というようなものがあり、今年度も小学校の高学年や中学校1・2年生の子たちに体験していただいた。

(委員)

・それをもっと認知してもらえれば、図書館ももっと利用が多くなると思う。

(事務局)

・改めてしっかり周知できるよう、実施していく。

(委員)

・今回の図書館の運営基本計画の見直しを受け、事業計画がこれから企画立案されていくということに期待をさせていただき、その上で2点ほど申し上げたい。

・1点目は、休館日と閉館時刻のあり方についての検討について、である。

一昨年の協議会で、閉館時刻のことについての発言があったようで、その際の事務局からの説明では、午後7時を過ぎると大幅に利用者が減る、というようなことだった。現在、コロナ禍にあって民間企業では営業時間が短縮されているようなこともあり、こうした機会に私個人としては、9時から21時までという大変長時間のサービスの提供ということについて、まず事務局側でどういうあり方が良いかということを少し検討していただければと感

じている。

- ・2点目は、地域資料の充実とその利活用という事について、である。

少し前にりぶらの10周年の記念事業として、菅江真澄さんのシンポジウムが開かれた。ぜひ、そういう他にないような貴重な資料について、我々素人にもわかるような説明、資料の価値がわかるような機会を、保存するだけでなく、発信していただいたり、市民にわかりやすい説明をしていただける機会があると、大変ありがたいというふうに思う。

また、郷土館に耐震の対応が必要だということで、現在閉まったままになっているが、以前入った時は、志賀重昂さんのいろんな旅行カバンやその関連の資料がきちんと説明されているところで、大変貴重な場所で良いところである、ということを感じた。

- ・冒頭で手嶋社会文化部長から文化財の展示が岡崎美術博物館で行われているという話があったが、本多光太郎さんにしても、志賀重昂さんにしても、図書館の1階の壁面に世界的な物理学者とか、世界的な地理学者という説明はあるものの、実際にその地域資料のコーナーに行ってみると、少し残念だと感じる。

- ・地域資料のデジタル化ももちろん大事だが、ゆかりのかたの情報や地域資料を充実させ、さらには発信していく、そういったことも図書館の1つの価値になると思う。

(議長)

- ・大人の世界でも読書量は増えていないという意見があったが、ベストセラーの売れ行きからすると、世の中全体からすれば読書量増加の動きは若干ある、と思っている。

- ・ただ、世の中はスマホに席卷されてしまっているため、その傾向になかなか抗うことができない状況である。

- ・今後どのように情報発信をしていくのかという取組みが先ほど事務局から披露され、図書館本来のあり方や岡崎という土地柄により、大事にしていかなければならないものがあるという御提案もいただいた。今後した対応もしていただきたい。

- ・今日の議論は、子どもたちにいかに本に親しんでもらうかということが色濃く出た、というように思う。

- ・市民からはこのように見えているという情報もそれぞれの委員から出された。今回の意見を少しでも生かしていただければと思う。

- ・その他、何か事務局からあれば連絡してほしい。

(事務局)

- ・美術博物館等からイベントのお知らせがあり、チラシ等配布したので、ぜひ足を運んでいただきたい。

(議長)

- ・その他質問などはよろしいか。(なし)
- ・これで議事は全て終了である。